

瀧上工業創業120周年

Sグレードファブの瀧上工業(本社・愛知県半田市、社長・瀧上品義氏)は、今年度で創業120周年を迎える。1895年(明治28)に名古屋で鍛冶屋「鍛冶定」を創業、1937年(昭和12)には「瀧上鉄骨鉄筋工業」を設立。以来、橋梁・建築鉄骨事業を通じ、中部地区をはじめ、全国の社会基盤整備の一翼を担ってきた。幾多の経済・社会の混乱期を乗り越えながら、節目の年を迎えた瀧上社長にインタビューした。

(名古屋・齋藤直人)

「思い返すと、いままで」と言っても過言ではない。この10年の変化が激しかった。公共事業費の縮減による影響は、業界にとって大きな打撃となった。発注減は下げ止まりの経営者、幹部、従業員感があるが、新設橋梁需 全員が地道に良いものを要は今後も伸びにくそう 作ろうという真面目な精神性が会社を支えてきた。橋梁の黎明期とも言える大鳴門橋(本州四国連絡橋、全長162.9キロ、85年開通)など国を代表する『橋を造る』から、『橋を直す』という仕事に重画できたことが大きい。

瀧上品義社長に聞く



成した。今年度からスタートさせた新中期計画で、取引は連結決算上、相殺は、売上高は15年3月期比約20%増の170億、営業利益率は2・5〜3%程度に引き上げる計画だ。推測される『外で稼ぐ』ことを決めている足元の橋梁需要量ではないが、保全事業は決してバラ色といえる。また、さらに成長させたい。グループ間で人材の流動化を進めて、全社の活性化につなげたい。今中期鋼構造物需要の増大が見込まれる。リニア中央新幹線は地場案件でもあり、関連物件が獲得できよう、現在情報収集に努めている。公共工事案

保全事業拡大、売上高180億円へ

また、建築分野において、見据えた経営ビジョンは、超高層ビルの鉄骨製作も手掛け、日本のインフラから初めて策定した中期ラを支えてきたことが、3力年経営計画が昨年度信につながり、会社成長で終了した。グループ全体で売上高130億、営業利益率2%の目標は達成した。『完全子会社になった。10年後、50年後を業

新中計スタート、グループ競争力強化

物件の獲得を狙うことになるが、工場の設置は考えていない。設計、調達などエンジニアリングとしての機能を果たせたら良い。また、ベトナムの合弁会社USF(ユニバーサル・スチール・ファブリケーション・ピナ・ジャパン)は、設立6年目にして、南北鉄道の橋梁を初受注した。これまで仮設の工事術が受注の中心だったため、本設橋梁受注は大きな出来事だ。

「創業120年を機にガバナンス(関連会社の完全子会社化による組織力)を強化したわれわれは今年度より、新生瀧上工業として新たなスタートを切る。これまでと違うのは機能の拡充で、われわれが提供できるサービスの範囲が格段に広がった。自社のみならず業界発展のために寄与できると確信している。ぜひ期待してほしい。」